

学校図書館情報化と学校・地域の情報化推進構想

新潟県上越市教育委員会 中島 憲一
 nakasima@jorne.or.jp
 http://www.jorne.or.jp/

キーワード 地域イントラネット、学校図書館、図書検索システム、ボランティア

1. はじめに

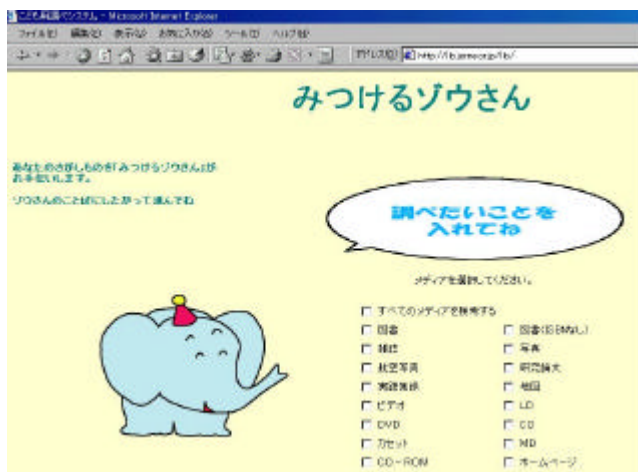
平成 8 年 4 月、上越市・上越市教育委員会は、上越教育大学・新潟県教育庁上越教育事務所及び新潟地域ネットワーク協議会の協力により、上越地域をエリアとする教育用イントラネット上越教育ネットワークを構築した。このネットワークの運用を通して、「学校における教育活動の支援と情報教育の充実」「教育機関相互の連携強化」を図ることを目的に上越教育ネットワーク研究会を設立し、「学校におけるネットワーク活用の指導及び支援」「情報教育に関する研究」「教材データベースの構築」等々の活動を続けてきた。

「先生が使えると子どもが使える」を基本方針にしながら、当初は、教職員への理解とリテラシーの向上に努めてきた。次のステップとして子どもたちが使える環境整備に取り組んだ。取り組みに弾みをつけるため、平成 10 年度「学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業」(文部省)と「先進的教育用ネットワークモデル地域事業」(文部省・郵政省)に応募し、指定を受けた。

子どもたちが使える環境にするためには、端末・校内 LAN・高速回線・コンテンツ等いくつかの条件が必要である。教育用コンピュータ整備により、端末の確保は何とか見通しが持てる。しかし、その他は一つ一つ検討しながら、白紙から模索する状態であった。

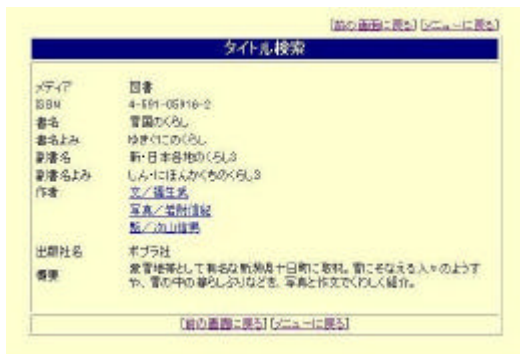
2. 何でも探せる「みつけるゾウさん」

情報を共有することの有効性やお互いの情報をどのように共有するかを効果的に理解でき、活用できるシステムとして「みつけるゾウさん」を作成した。これは、様々な学習資料をデータベース化する構想に基づいて作成したシステムであるが、最初の一步として学校図書館蔵書情報の構築に取り組んだ。



< どの学校にあるのかな? >

< ボランティア苦勞の作成データ >



< 自校にある本と他校にある本が表示されます >

E スクエア・プロジェクト成果発表会

図書館に行かなければ蔵書情報を検索できないと言うのでは子どもたちの活用意欲が高まらない。どの端末からも検索できるようにするため、Webを活用したシステムとし、情報端末のある所が学習情報センターとなれるように工夫した。また、自校の情報だけならデータベース化する必要性はそれほど高まらない。上越市内の学校や公立図書館の情報を同時に検索できるようにし、学校間の壁を取り払う情報の共有化を目指している。

3. 本好きの子どもを願う母親パワーの活躍

「ネットワークの向こうに人がいる。」は、よく使われる言葉である。私たちは、子どもたちがそれを実感できる状況をどのように作り出すかを追求している。子どもたちが活用するデータ作成に汗を流す人々の姿をクローズアップすることと地域における情報活用の理解者を養成することを主な目的に図書データ入力ボランティアを募った。1枚のプリントに応募してくださった皆さんが冷房のない猛暑の教室で一心にデータ作成に取り組んでおられる姿に大きな期待が膨らむ夏休みのデータ入力作業であった。

夏休みが終わり、協力してくださった皆さんが地域（学校）に戻って学校図書館の蔵書整理作業から活動が始まった。少しでも子どもの興味を惹きつけるデータにしたい、子どもたちを図書館に呼び戻したいと願う親心は、必ず子どもたちに通じ、大きな刺激を与えてくれることを確信した。

4. 校内のインフラ整備を支える父親応援団

職員室のみ接続されていたネットワーク端末を子どもたちが待つ図書館とコンピュータ室に拡張することを学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業で行った。校内LANのベースが出来上がると特別教室にも普通教室にもネットワークの情報コンセントが欲しいという要望が高まった。

それぞれに高い技術をお持ちの父親パワーを学校支援のパワーに変え、教師と保護者が共通の目的に向かって共同で作業することを通して、共に子どもを育てる意識の再確認を目指した。子どもを思う親心は、専門業者顔負けの超高品質LANを実現した。それ以上に半日のLAN配線ボランティアで「何かできる」という思いを味わっていただくことができたことは大きな成果である。各学校のこのような取り組みによって、モデル事業に参加している29小学校のうち、あと3校の取り組みを残して校内LANが構築されてきた。

5. 学校図書館が地域の情報センターになれる日

学校図書館情報化・活性化推進モデル地域事業は、学校図書館と公共図書館が一同に会し、学校や地域の情報活用を検討・協議する機会を与えてくれた。上越市立図書館蔵書情報のインターネット公開を待ち望む学校の思いが伝わり、公開に拍車がかかった。学校に電子メールで予約した市立図書館の蔵書が届き、活用する方法について検討が進められている。そして、次のステップとしては、学校に市民の借りた本が届くようになり、学校図書館に集う市民の学習姿勢が子どもたちの学習意欲を刺激する日を目指して取り組みを進めていく。学校図書館の情報化に協力してくださったボランティアが、ここでさらに活躍してくださることに大きな期待が寄せられている。

6. おわりに

私たちは、一人一人がネットワークを活用することやネットワークを支えることを通して、より密接につながっていくことを願っている。「人を育むのは人の和、情報を活かすのは人の輪」を念頭に、人がやさしくなるネットワークづくりにこれからも取り組んでいく。



<子どもはどんな思いでこのデータ入力を見るのかな？>



<校内LAN配線の父親応援団>